

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地						
岡山理科大学専門 学校	昭和50年4月14日	村岡 正	〒700-0003 岡山県岡山市北区半田町8-3 (電話) 086-228-0383						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地						
学校法人加計学園	昭和36年9月20日	理事長 加計 晃太郎	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 (電話) 086-252-3161						
目的	建築技術者として必要な専門知識と実践的技術を習得し、地域に貢献しうる人材を育成することを目的とする。また、就労者にとって就業時間後に職業実践に関わる再教育の場を提供する。								
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	建築学科		平成7年 文部省告示第7号	—				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総 単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
	2 年		夜間	81	56	10	14	1	0
単位									
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		42 人		4 人		16 人		20 人	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は100点を満点とし、60点を合格とする。評価は100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可とし、59～0点を不可とする。				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月9日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件	本校に2年以上在学し本校が定めた授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者に対して校長は総長と協議の上、卒業と認定する。 また学科に定める規定単位数を修得した者に対して進級と認める。				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メール			課外活動	■課外活動の種類 古民家再生論の校外研修 ■サークル活動: 有				
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 総合建設業、住宅会社、工務店 ■就職率 ^{*1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{*2} : 86.6% ■その他 (平成 28年度卒業者に関する 平成29年3月31日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	二級建築士(受験資格) 宅地建物取引主任者 インテリアコーディネーター 二級建築施工管理技術検定 cad利用技術者 福祉住環境コーディネーター検定				

中途退学 の現状	■中途退学者	7名	■中退率	16.6%
	平成28年4月1日 在学者	42名	(平成28年4月1日 入学者を含む)	
	平成29年3月31日 在学者	35名	(平成29年3月31日 卒業者を含む)	
	■中途退学の主な理由	経済的理由、仕事の都合		
	■中退防止のための取組	チューター制によるカウンセリング、専門のカウンセラーの常駐		
ホームページ				

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家試験受験資格要件を満たす必須科目の他、最新の知識・技術の修得に応じる科目について、業界と学術の双方からの要人を編集委員に迎え入れて、カリキュラムの構成に配慮している。また、専門職業人としてかつ、関係業務従事にも対応できる人材の養成を目指し、業界・企業の要望を真摯に取り入れるべく、業界の第一線で活躍し、専門に造詣深い講師を招聘することに努めている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年12月7日現在

名 前	所 属
村尾 昌俊	株式会社 大本組 建築本部長
山崎 雅弘	岡山理科大学工学部建築学科教授
延原 政憲	株式会社SID創研 建築設計部部長
村岡 正	岡山理科大学専門学校 校長
湯浅 康生	岡山理科大学専門学校 教務課長
高木 宣徳	岡山理科大学専門学校 建築学科長

(開催日時)

第1回 平成28年5月11日 14:00～

第2回 平成28年12月6日 14:00～

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

夜間授業の特異性から、外部への実習・演習が難しく、多くの履修科目に企業等からの招聘講師を充てている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
施工図	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	(株)大本組
基礎製図	教科書にもとづく、木造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力の基礎的な習得をめざす。	竹下和宏建築設計事務所
設計製図Ⅰ	教科書にもとづく、木造の矩形図および鉄筋コンクリート造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力のステップアップをめざす。	竹下和宏建築設計事務所
設計製図Ⅱ	1年次において習得した製図の基礎、図面の表現方法等をもとに、与えられた計画条件により設計、製図を行う。期間中2～3課題を提出する。	Vans岡山事務所 一級建築士事務所
卒業設計	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。またテーマやそれに基づく諸々の条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。	Vans岡山事務所 一級建築士事務所

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

専門教員に対し、建築士の定期講習会・各種講習会に積極的参加を要請している。専任教員2名は大学(岡山理科大学工学部建築学科)の非常勤講師を務め、常に最新の建築工学を研究しており、学術交流に貢献している。また、キャリア教育の研修に企業訪問や研修講座に派遣。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
洗井 健一	一般社団法人 岡山県建築士会会長
春名 章宏	公益社団法人 岡山県獣医師会会長
國近 寛康	公益財団法人 岡山県動物愛護財団事務局長
平尾 智子	一般社団法人 ジャパンケルクラブ 中国ブロック協議会会長
山本 拓哉	有限会社 マリンシアター 代表
中塚 利信	同窓会長、有限会社 中塚銘木店 代表
平井 義一	玉野総合医療専門学校 校長
木畑 廣伸	吉備高原学園高等学校 校長
庄 公寿	庄屋電装 株式会社 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

<http://www.risen.ac.jp/evaluation.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.risen.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科夜間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎デザイン	建築を学ぶ上での素養となる基礎を、図法の演習を通して学ぶ。	1前	36	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン	快適な生活環境を造るために、空間を内からとらえ、人間の心理や行動あるいは、スケールで捉えた空間・材料などの知識を講義する。	1後	36	2	○			○			○	
○			基礎・計画	建築を学ぶための基礎的素養を身につけ、建築(空間)の見方、見え方を理解する。	1前	36	2	○			○		○		
○			建築計画Ⅰ	建築各論をする前に、必要となる計画のたて方や考え方の基本を学ぶ。	1後	36	2	○			○			○	
○			建築計画Ⅱ	各種建築物を設計するために、使いやすく、丈夫で、美しくなくてはならない。その建物を造るには、人間の生活をまず理解し、空間の規模、空間どうしのつながりは、どうなっているのかを学ぶ。	2前	36	2	○			○			○	
○			環境工学	環境工学では、温熱、光、空気、音などの諸環境を配慮した設計を行うための、基礎的な知識を養成する。	1前	36	2	○			○			○	
○			建築設備Ⅰ	建築設備の基礎について講義する。給排水衛生設備、電気設備について行う。	1前	36	2	○			○			○	
○			建築設備Ⅱ	建築設備の基礎について講義する。空気調和設備、給排水衛生設備について行う。	1後	36	2	○			○		○		
○			建築史	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。	1前	36	2	○			○			○	
○			設計特論	卒業設計を補完しながら、建築空間を創造していく上で必要な素養を学び、より完成度の高い作品を目指す。	2後	36	2		○		○		○		
○			総論計画	計画関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行い、問題を理解する。	2後	36	2		○		○			○	
○			建築法規Ⅰ	建築基準法、建築関係規定、建築・構造・設備等に関する諸法令の基礎的知識の習得。	1後	36	2	○			○			○	
○			建築法規Ⅱ	同上	2前	36	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科夜間部) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			総論法規	建築法規の総括としての復習と、併せて建築士受験対策として問題集を中心とした演習を通じてより深い知識を習得する。	2後	36	2	○			○			○		
○			基礎・構造	建築における構造とは何か、また建築関係の仕事に、なぜ構造の知識が必要なのかを説明する。構造設計の役割を理解させる。	1前	36	2	○			○				○	
○			一般構造Ⅰ	建築全般についての初歩的知識、また深い知識を得る前に、浅く広い知識を技術全体のバランスを取りながら身に付ける。	1前	36	2	○			○				○	
○			一般構造Ⅱ	建築物を構成する部位別の構法（機能、名称、納まり等）及び、それらに使用する材料についての基礎知識を習得する。	1後	36	2	○			○				○	
○			木構造Ⅰ	木造建築の構造、構法に関する基本的な事項について、木造住宅を中心に講義する。	1後	36	2	○			○				○	
○			木構造Ⅱ	木構造Ⅰに続いて、木造住宅を中心に講義する。	2前	36	2	○			○				○	
○			鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造の構造計算について、部位ごとに実例を示しながら、説明する。特に中立軸について理解を深めさせたい。	2後	36	2	○			○				○	
○			鋼構造	鉄骨造の構造計算について、部位ごとに実例を示しながら、説明する。特に座屈に対する理解を深めさせたい。	2後	36	2	○			○				○	
○			構造力学Ⅰ	建築設計において構造とは何かを理解し、興味を持たせ基本的な骨組、力学を身に付ける。	1後	72	4	○			○					○
○			構造力学Ⅱ	構造設計の重要性を理解し、実務及び建築士試験に役立つ能力を身に付ける。	2前	72	4	○			○					○
○			建築材料	建築に用いられる材料はきわめて範囲が広い、主に建築構造の基材となる鋼材、コンクリートについて講義する。木材は、木構造で講義を行う。	1前	36	2	○			○					○
○			材料実験	建築材料の中で、代表的なもの（木材、セメント、コンクリート、鋼材）を取り上げ、その力学的性質、化学的性質などを、実験を通して体験する。また、それぞれの材料がもつ特性を相互に比較検討し、より理解を深める。	2前	36	1			○	○			○		
○			総論構造	構造関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。建築構造のおもしろさに改めて注意を喚起し、さらに構造力学を勉強したい学生のために、力学の入口、曲げ理論をきちんと解説する。	2後	36	2	○			○					○

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科夜間部) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			基礎・施工	建築における施工とは何か、施工計画の重要性と、施工管理の意義、また建設業の実際と、これからの業界の流れを説明する。	1前	36	2	○			○	○				
○			建築施工Ⅰ	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	1後	36	2	○			○			○		
○			建築施工Ⅱ	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2前	36	2	○			○			○		
○			施工図	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	2後	36	1			○	○			○	○	
○			建築積算Ⅰ	建築積算の基本的な考え方、正しい積算方法を習得する。また、コスト面から計画や工事が考えられ、建築物を性能の面から評価し責任の持てる技術者の育成を行う。	2前	36	2	○			○				○	
○			建築積算Ⅱ	鉄筋コンクリート造の鉄筋、鉄骨造の仕口部溶接について重点的に教える。正面から技術習得を目指す、技術者の育成の第一歩とする。	2後	36	2	○			○				○	
○			建築測量実習	建築測量は、各種工事の計画・設計、施工などに対し重要な指針を与えるものである。そのため、測量技術の概要を理解させることを主題とする。	2前	36	1			○	○	○				
○			総論施工	建築施工の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。	2後	36	2		○		○	○				
○			基礎製図	教科書にもとづく、木造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力の基礎的な習得をめざす。	1前	72	2			○	○			○	○	
○			設計製図Ⅰ	教科書にもとづく、木造の矩形図および鉄筋コンクリート造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力のステップアップをめざす。	1後	72	2			○	○			○	○	
○			設計製図Ⅱ	1年次において習得した製図の基礎、図面の表現方法等をもとに、与えられた計画条件により設計、製図を行う。期間中2～3課題を提出する。	2前	72	2			○	○			○	○	
○			卒業設計	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。またテーマやそれに基づく諸々の条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。	2後	72	2			○	○			○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科夜間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			CAD実習Ⅰ	この授業では、建物や空間のアイデアを練るためのツールとして、またプレゼンテーションとしてのコンピュータ利用にスポットをあて、そのスキルを実習を通して学びます。	1前	36	1			○	○			○	
○			CAD実習Ⅱ	二次元汎用CADによる、CAD製図の実習。	1後	36	1			○	○			○	
○			CAD実習Ⅲ	2次元CADの基本操作をふまえ、より実践的な2次元CADの使用方法を学ぶ。	2前	36	1			○	○			○	
○			CAD実習Ⅳ	CAD実習Ⅰからの集大成としてドローイングからプレゼンテーションまでを行う。また、卒業設計を補完しながら統合的に表現する技術も同時に学ぶ。	2後	36	1			○	○			○	
		○	インターンシップ実習	インターンシップ等		30	1			○	○				
合計						42	科目	1728単位時間(81 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各科目において学習評価と出席時数による認定によって取得された総単位数が81単位以上であること(全科目必修)。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。